

---

～ 風 ～

紀本 真利亞

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

〜 風 〜

### 【コード】

N9225D

### 【作者名】

紀本 真利亜

### 【あらすじ】

どんな風でも私は体で受け止めます。それが私自身の為になるのだから。

**(前書き)**

風を自分にふりかかる試練、壁に置き換えてください。

今 私の横を風が通り抜けた

その風は二度と私には吹く事はない

いったい今までどれだけの風に

私は打たれてきたのだろう

足元の小さな花も風に揺れる

茎はとても細いのに決して倒れず

太陽に向かってまた花びらを向ける

小さな命でも今を懸命に生きている

また私の横を風が駆け巡る

いったいこの風はどこから来ているの？

私の知らない遠くの国から？

今過ぎ去った風はやがてきつと

次にすれ違う人を通り抜けて

色んな草木をまた揺らしていくのだろう

時に暖かく 時に冷たく

時に穏やかで 時に激しく

風は都度表情を変えて

私は自分に吹いてくる風からは

決して逃げる事はしない

どんなに冷たくても

どんなに激しい風にも

私は受け止める

何故なら小さな花ですら

身を傷つけながらも

受け止めているから

私は風を体で受け止める

風が吹くことの意味

風を受けと止める事の意味

全てに於いて意味があるのだから

そしていつかこの駆け続ける風も

自分の存在意義を全うした時に

自ら吹くのを止めてしまうのだろう

私はこれからも風に打たれる事でしょう

私が存在し続けるまで

それは私だけに言える事では無い

他の人にも言える事

風からは決して逃げてはならない

暖かい壁で守られている所に

身をひそめていても

いつか必ず吹いてくる冷たくて強い風には

きつと堪えられないから

その場しのぎななど決してしないで

だから私は今のうちから少しずつ

風を受け止める

今後の私の為

今を懸命に生きる為に



(後書き)

最後まで目を通してくれた方には感謝いたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9225d/>

---

～ 風 ～

2010年10月10日03時20分発行